

# 看護師の二交替制が患者、医師に与える影響について

キーワード : 二交替制 医師 患者

1 病棟 5 階西

杉山亜希 安達康子 下野加奈 右田閑子 倉田町恵

## I. はじめに

第一外科では平成19年11月から二交替制を導入している。導入前は医師、看護師共にインシデントのリスクや長時間勤務を行うことへの不安が聞かれた。導入後、看護師からは「身体的に楽になった」、「プライベートが充実した」などの肯定的な意見が多く聞かれ、今後も二交替制を継続していきたいと考えている。しかし、患者や共に従事する医師にどのような影響を与えているのかも評価するべきではないかと感じた。そこで私達は、二交替制が患者、医師にどのような影響を与えているのかを調べ、医師が看護師との信頼の上で医療を提供でき、患者は安全、安楽に安心して医療が受けられるような二交替制のあり方について検討していきたいと考え、当研究に取り組んだ。

## II. 研究方法

### 1. 対象

三交替制と二交替制を経験したことのある患者30名と1病棟5階西に勤務している医師13名とした。

### 2. 期間

調査期間は平成20年7月から二ヶ月間とした。

### 3. 調査方法

「二交替制が患者、医師に与える影響について」独自に作成した選択・自記式のアンケート調査を行った。選択式では、各項目（①思わない、②あまり思わない、③変化がない、④少し思う、⑤思う）の内、一つに回答を求めた。（表1. 2）

表1. 患者へのアンケート項目

|                                      |
|--------------------------------------|
| ①看護師がベッドサイドにいる時間が増えた                 |
| ②看護師に相談しやすくなった。                      |
| ③くわしく手術や検査の説明が聞けるようになった              |
| ④看護師に依頼したことの対応が早くなった                 |
| ⑤夜間に看護師の勤務交替がないことで、夜間の出入り等の騒音が少なくなった |
| ⑥担当看護師によく会えるようになった                   |
| ⑦担当看護師と過ごす時間が長くなった                   |
| ⑧夕方から朝まで同じ看護師で安心できるようになった            |
| ⑨夜勤の看護師は朝も笑顔で対応するようになった              |
| ⑩ナースコールが押しやすくなった                     |
| ⑪医師と看護師の連携がとれるようになった                 |
| ⑫看護師の言葉遣い、身だしなみがよくなった                |

表 2. 医師へのアンケート項目

- |   |
|---|
| ①患者の状態把握がしやすくなった<br>②患者の夜間の状況がわかりやすくなった<br>③看護師に検査、処置の依頼がしやすくなった<br>④看護師の検査、処置の介助がスムーズになった<br>⑤看護師と処置などの時間調整がしやすくなった<br>⑥看護師のインシデント、ミスが少なくなった<br>⑦インシデント、ミスの発見が早くなった<br>⑧記録がコンピューター入力をされていないことが減った<br>⑨患者の状態に変化があったときに、看護師は迅速に報告している<br>⑩長時間同一の看護師が患者をみることに不安はない<br>⑪看護師とコミュニケーションがとりやすくなった<br>⑫看護師に依頼したことがきちんと行われている<br>⑬朝まで笑顔で対応できている |
|---|

#### 4. 倫理的配慮

調査では個人が特定できないように無記名とし、プライバシーの保護を行うことと研究への参加は自由であり、参加・不参加によって不利益が生じないことへの説明を書面で行い、返送を持って承諾を得るものとした。

回収したアンケート用紙は研究者が管理し、情報の漏洩を防止した。

### Ⅲ. 結果

アンケートの回収率は患者100%(30/30名)、医師100%(13/13名)であった。

#### 1. 患者への影響(図1)

患者が希望する勤務体制は、二交替制が23名(76. 7%)、三交替制が2名(6. 7%)、わからないが5名(16. 7%)であった。

全体的に三交替制と比べて、変化がない・よい評価(思う・少し思う)と答えていた。

評価がよかった順に、「夕方から朝まで同一の看護師で安心できる」と思う・少し思うが24名(80. 0%)、変化がないが4名(13. 3%)、あまり思わない・思わないが2名(6. 7%)であり、「相談しやすくなった」が思う・少し思うが22名(73. 3%)、変化がないが7名(23. 3%)、あまり思わない・思わないが1名(3. 3%)であった。次に「看護師が朝も笑顔で対応するようになった」が思う・少し思うが21名(70. 0%)、変化がないが8名(26. 7%)、あまり思わない・思わない1名(3. 3%)であった。続いて、「看護師に依頼したことへの対応が早くなった」「医師と看護師の連携がとれるようになった」、「看護師がベットサイドにいる時間が増えた」「看護師から詳しく検査や手術についての説明が聞ける」という順でよい評価であった。「医師と看護師の連携がとれるようになった」という項目では半数以上が思う・少し思うと答えていたが、全項目の中であまり思わないと答えた人が4名(13. 3%)と最も多かった。

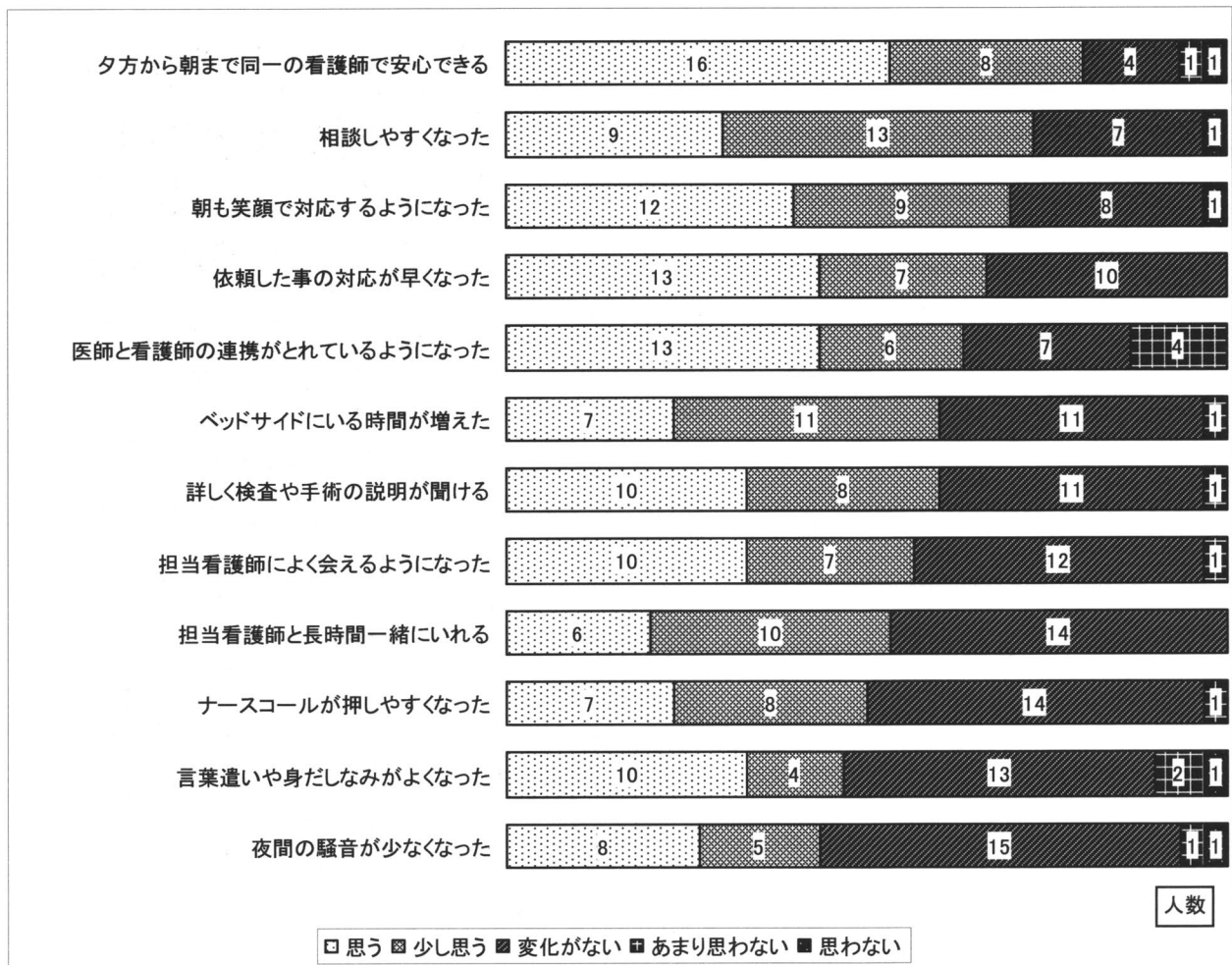


図1 患者に与える影響 (n=30)

## 2. 医師への影響(図2)

全体的に三交替制と比べて、変化がない・よい評価(思う・少し思う)と答えていた。

評価がよかった順に、「看護師に依頼したことがきちんと行われている」と思う・少し思うが8名(61.5%)、変化がないが4名(30.8%)、あまり思わないが1名(7.7%)で、「看護師とコミュニケーションがとりやすくなった」と思う・少し思うが8名(61.5%)、変化がないが5名であった。次に、「長時間同一の看護師が看ることに不安はない」と思う・少し思うが6名(46.2%)、変化がない5名(38.5%)、あまり思わないが2名(15.4%)であった。続いて、「状態変化時に看護師は迅速に報告している」、「患者の夜間の状況が分かりやすくなった」、「看護師の検査・処置の依頼がしやすくなった」が好評価であった。

よくなかった評価(あまり思わない・思わない)が最も多かったのは「記録が入力されていないことが減った」で3名(23.1%)であった。

また、インシデントの項目については、三交替制と比較し、「変化がない」という意見が多く、「インシデントの発見が早くなった」では10名(76.9%)が、「インシデントが少なくなった」は11名(84.6%)が変化がないと回答した。

また、記述式では深夜休憩時のマンパワー不足を補う方法を考えなければいけないという意見があった。

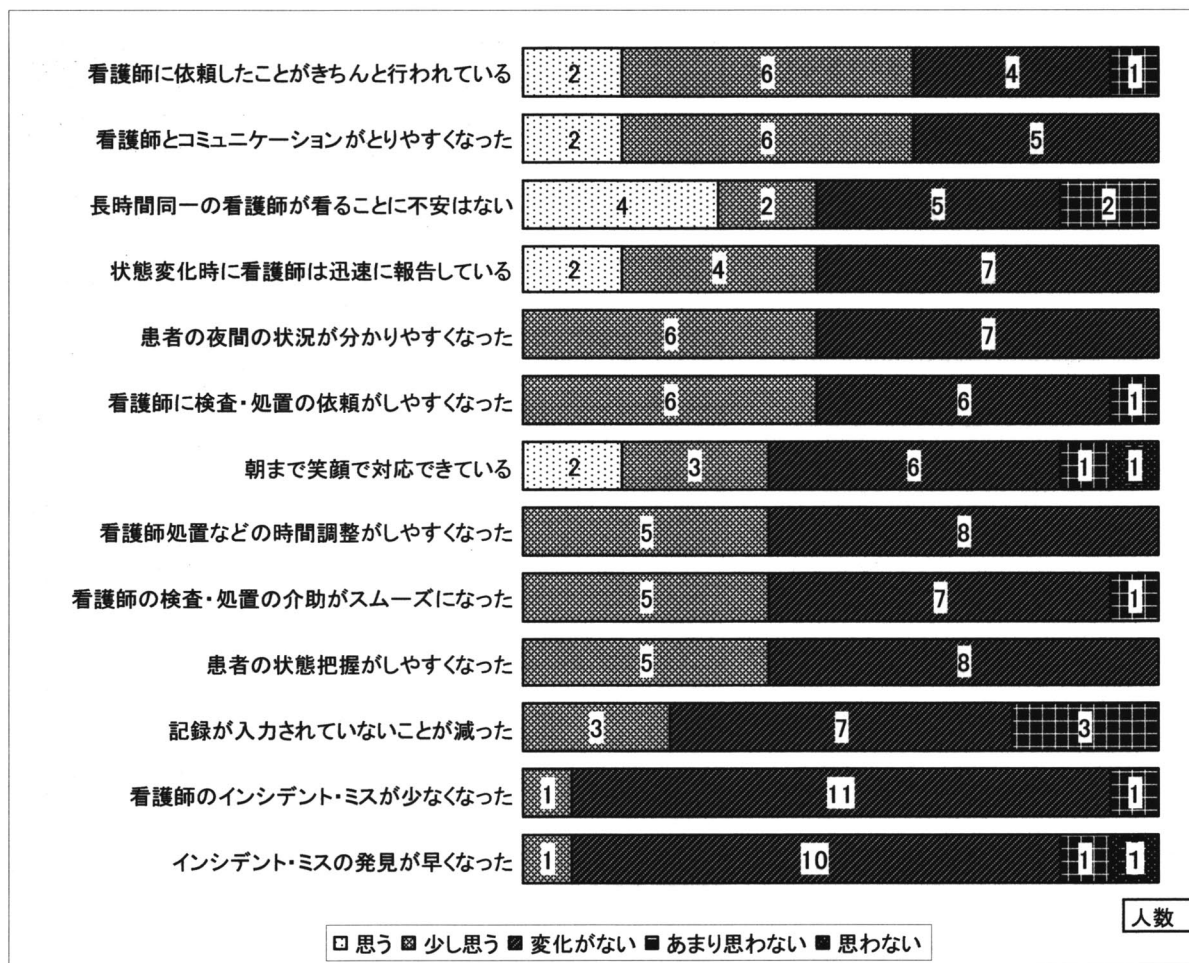


図2. 医師に与える影響 (n=13)

#### IV. 考察

患者、医師共に多くの項目で三交替制より二交替制の方がよい、または変化がないという結果であった。多くの患者が二交替制を希望していたことから、二交替制は患者により影響を与えているといえる。三交替制では患者は深夜の担当看護師が分からず、不安に感じていたが、二交替制では朝まで同一の看護師が担当し、患者に安心感を与えていた。また、看護師自身の精神的、肉体的ゆとりが看護に反映し、信頼関係の構築により影響を与えているのではないかと考える。

医師が依頼した事がきちんと行われていると答えた理由として、一人の看護師が長時間患者を担当するため、依頼された看護師が直接関わるが増え、申し送りによる伝達のミスが少なくなったと感じているためと推察する。その反面、依頼されたことを忘れてしまうと気付くまでに時間を要し、重大なインシデントにつながる可能性があることも注意すべき点と考える。

改善点として、医師から記録の不備があげられた要因の一つには、看護師が患者のケアを優先させ、記録が朝になってしまうことがあるためと考える。医師がリアルタイムに情報がとれるように記録時間の配分の検討が必要である。

また、長時間同一看護師が看ることへの不安があげられたのは、経験年数や能力に差があることや、1人の看護師の思い込みで患者をみている場合に医師は不安に感じていると考えられる。先輩看護師が後輩看護師のフォローを充分に行い、状態変化時はチームを超えて夜勤者全員で情報を共有していく必要がある。二交替制の開始時はインシデントの不安が聞かれていたが、以前と

ほとんど変わらないという結果であった。しかし、二交替制は同一看護師が長時間みることで、ミスの発見が遅くなることも予測されるため、今後もダブルチェックや指差し確認を行い、インシデントの防止・早期発見に努めていくようにする必要がある。

## V. 結論

1. 二交替制が患者、医師に与える影響を知ることができた。
2. 二交替制は患者に安心感を与え、患者と看護師、医師と看護師の間でのコミュニケーションが図れ、信頼関係の構築に役立っていた。
3. 患者は二交替制になっても医師、看護師の連携が充分でないと感じていた。
4. 勤務帯での記録時間の配分の検討が必要である。

## 参考文献

- 1) 畑瀬初美：ナースが選んだ働きやすい勤務体制、病院, 55(4), p331-332, 1996.
- 2) 相垣良子：二交替制勤務の導入経過と現状, 看護技術, 4, p102-105, 1999.
- 3) 市川幾恵, 他：二交替制と三交替制における作業能率と精神的健康度の検討(第27回日本看護学会集録；看護管理, p97-99, 1996.
- 4) 市川幾恵：疲労と、病院, 二交替制 55(4), p340-344, 1996.
- 5) 中山晃志：看護職の交代勤務の形態と蓄積的疲労の関係, 5(14), 看護管理, p408-411, 2004.
- 6) 上畑鉄之助：よりよい交代勤務制を探る—「看護婦の交代勤務制の改善に関する研究」を基に, 看護, 53(12), 74-78, 2001.